

令和4年度（2022年度）学校評価報告書

学校園名	宝塚市立 西山 幼稚園	校長名	能勢 良子
------	-------------	-----	-------

1 学校教育目標

心豊かに たくましく生きる子 ① 元気に遊び、おもしろいのある子 ② あきらめずにやりぬく子 ③ 自分で考えて行動する子

2 重点目標

<ul style="list-style-type: none"> 主体的に考え、活動する幼児の育成に努める。（あかねちゃんタイムの充実） 豊かな感性を育み、創造力、思考力、道徳性の芽生えを培う。 「心と心のふれあい」を大切にし、健康で安全な生活に必要な基本的生活習慣と態度の育成に努める。 家庭、地域、地域の就学前施設及び小中学校・高等学校との連携を密にし、相互理解を深める。
--

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

4 評価項目ごとの学校関係者評価

領域	評価の観点及び評価項目		達成状況	学校の取組状況・改善の方策	
学校運営	開かれた幼稚園づくり	情報発信	B	昨年度に引き続き、HPの更新を毎週数回行うようにした。今年度試行のコードモンでは、保護者のみの公開なので、より多くの写真を公開することができた。登園降園時には、写真にコメントをつけ掲示するドキュメンテーションを行い、保護者に行事をより知っていただき、直接感想も聞ける場を設けることができた。	コードモンは、自分からアクセスしなくても送られてくるので、保護者の手間も省けて見やすい。宝塚の理念である子どもの最善の利益を中心に考えてほしい。ドキュメンテーションは、子どもと親が話すきっかけになったのではないかな。
	衛生安全管理	新型コロナウイルス感染予防対策 不審者対応 安全点検 衛生管理	A	手洗い・うがい・消毒・検温・パーテーションなどの対策を実施してきた。子ども達の意識も高くなってきた。避難訓練（不審者対応も）も毎月実施できた。安全点検も、毎日実施できた。	お弁当を、一方方向を向いて食べるのではなく、パーテーションで仕切った方が、透けて近くの友達の顔が見えて子どもの成長に良いのではないかな。 不審者は、見た目が普通なので、見極めにくいところが、難しい。笛など、実際の音を聞いておくことも必要ではないかな。
	子育て支援の充実	預かり保育の充実 相談・学びの場	B	預かり保育は、年間を通して実施できた。子どもの人数が減っているため、子ども同士で遊ぶ時間が少ない。未就園児の人数も少なく、年齢が低いことなどあるが、今後より内容を充実させていきたい。	子どもが少ないことが課題。
	教職員の資質向上	深い幼児理解 研修への参加	B	研究会を行い、園内の学びを深め、他園の先生方とも交流できた。職員全員でのオンライン研修が多く、時間の確保に苦慮したこともあった。職員室での話し合いなど、教師一人一人の資質が向上するように、今後も取り組んでいく。	資質向上に向け、研修を積んで、保育をより充実させてほしい。

教育課程	幼児期にふさわしい生活の工夫	幼児が主体的に遊ぶ保育の創造	A	異年齢保育に取り組み、少人数ながら子ども達が育ち合う姿が、数多く見られた。今後も、豊かな人間関係を築けるような、保育に取り組みたい。	少人数の良さを活かしてほしい。未就園児との交流などに、力を入れてほしい。小学校1年生とのつながりも保ってほしい。
	基本的な生活習慣の育成	基本的な生活習慣の確立	A	日々の生活や保健指導を通して、自分の身の回りのことは自分ですることや、話を聞く姿勢を身につけられるように、繰り返し伝えた。引き続き、教師が意識を高くもって、取り組みたい。	人数が少ないので、一人一人をしっかり見て、保育できている。
	校種間連携	保・幼・小・中・高との交流	B	地域の保育所(園)・幼稚園・小学校・中学校とコロナ禍前に近い状況で取り組み事ができた。両方の子ども達に、良い影響があったことを、実感できた。	子ども達だけでなく、教師間の連携も大切である。私立幼稚園・私立保育所園にも連携の場を伝えて、広げていく。
課題教育	人権教育の推進	幼児期にふさわしい人権意識の育成	B	自分も相手も大切にすることや、命の大切さを、機会を見つけて丁寧に話すことを心掛けた。	子ども達に、機会を見逃さず、話をしていくことが必要である。
	特別支援教育の充実	配慮をする幼児を核にした学級経営	B	一人一人の個性を大切に保育に努めた。そのために、保護者との連携を丁寧にできた。今後は、周りの子ども達の啓発を継続していきたい。	教師間で連携を取って、保護者と関わっていけるようにする。降園時、それぞれの保護者個別に話をするのが難しいので、教師で役割を決めて対応できるようにする。
独自項目	地域との連携	まちづくり協議会等地域組織との連携	B	コミュニティへの参加、評議員、民生委員の園訪問などで、幼稚園や地域についての情報交換をしたり、園経営についてアドバイスをいただいたりできた。	子ども達と地域との交流を深めてほしい。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

○実施方法については、適切である。

6 総合的な学校関係者評価

- 少人数での保育で、異年齢保育をふんだんに取り入れた1年だったことが、よくわかった。子ども達は、異年齢の集団で、お互いを尊重し合い、成長しているのが感じられる。
- アンケートの回収率が100パーセントではなかったのが気になるころではある。少人数できめ細やかな保育をされているが、残りの13パーセントの理由を気にかけて、保育を進めてほしい。